

## 第2回江別市食育推進計画策定委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年9月20日（木）午後6時30分～午後8時00分

場 所：市民会館31号室

出席委員：小野寺委員長、伊藤副委員長、八巻委員、中田委員、尾澤委員、佐藤委員、  
今林委員、中橋委員、郷委員（計9名）

欠席委員：鈴木委員、竹居田委員（計2名）

事務局：川上経済部次長、堀井農業振興課長、徳橋農政係長、木村主事、田中主事  
（計5名）

### 1 開 会

（小野寺委員長挨拶）

（今回から出席の中橋委員挨拶）

### 2 議 事

#### （1）第3次江別市食育推進計画（素案）について

【小野寺委員長】

議事の（1）「第3次江別市食育推進計画（素案）」について、1章ごとに協議願  
う。それでは、第1章から意見はないか。

（第1章意見なし）

それでは、第2章から意見はないか。

9ページ、江別市の現状の説明の最後「現状値を下回る」ではなく、「初期値を下  
回る」では。

【事務局】

指摘のとおり修正したい。

【中田委員】

6ページ、①野菜摂取量について、毎年の追跡調査では大きな傾向は見る事はでき  
なく、5年10年単位の長期間の傾向を見た方がいいのでは。

7ページ、③朝食の欠食について、欠食の定義にある果物などは朝食として含めて  
いいのでは。

【事務局】

5ページから7ページにかけては、国の調査を引用しており、統一の定義に基づき、  
全国的な傾向を読み取るための資料として理解を願う。

なお、野菜摂取量については、長期的に見てもこの10年と同様の傾向となってい  
る。

【小野寺委員長】

先日公表された平成29年度の調査結果では、野菜摂取量について有意な増減はな  
いという結論である。

現在の傾向を読み取るためには、平成29年度の結果を計画に反映すべき。

【事務局】

最新の調査結果を反映し、傾向についても修正したい。

【郷委員】

野菜摂取量に有意な増減がなければ、野菜摂取に関して対策をしないということか。

【事務局】

江別市では、350gの野菜摂取を推進しており、その目標には達していないこと

からも、野菜摂取は推進していく必要があると考える。

【小野寺委員長】

9 ページ、「食生活に係る目標指標」について、具体的な目標値はあるか。

【事務局】

目標は増加、維持、減少を矢印で示している。

【尾澤委員】

現状の値を把握する上で、初期値や目標値が混在する表になっており、わかりづらいのでは。

【事務局】

見やすい表へ改善を図りたい。

【尾澤委員】

10 ページ、保健分野の今後に向けたところについて、生活習慣病の対策だけでなく、近年問題視されている高齢者の低栄養や、赤ちゃんの低体重につながる若い女性のやせ志向についても対策の必要があるのでは。

【今林委員】

同じく、6 ページの野菜摂取量における全体の野菜摂取量の底上げにつなげるため、特に若い世代の野菜摂取量が少ないことを強調すべき。

【事務局】

低栄養や若い女性のやせ志向、若い世代の野菜摂取量いずれについても、10 ページの今後に向けた部分に追記したい。

(以上第2章意見なし)

【小野寺委員長】

それでは、第3章から意見はないか。

【事務局】

24 ページ、成果指標の最後「毎日野菜を食べている人の割合」から、より具体的な「1日の推定野菜摂取量」に置き換える予定である。数値については現在調査集計中であり、年内にまとまり次第数値を盛り込む予定である。

【小野寺委員長】

17 ページ、「例示」ではなく「取り組み例」でいいのでは。また、この取り組み例は5年間必ず続けていく取り組みということか。

【事務局】

17 ページの表記は「取り組み例」という表現に統一する。取り組み例については、毎年、各年、単年、統廃合さまざまな展開が予想されるため、5年間どういった食育に取り組むか、方向性を示すものである。

【郷委員】

15 ページ、親としての視点からも、どうして食育に感心をもつ必要があるのかを「体や心をつくる大切な時期である」という表現などで示すべき。

【事務局】

体や心をつくる大切な時期という表現でいえば、特に妊娠期・乳幼児期にあたりと考える。家庭での心がけの例などへ追記したい。

【中橋委員】

16 ページの取り組み例と17 ページの例示にかけての繋がりをわかりやすく改善願う。

【事務局】

16～23 ページにかけて、そのように改善をしたい。

(以上第3章意見なし)

**【小野寺委員長】**

資料編及び全体を通して意見はないか。

**【尾澤委員】**

「私たちの体は、食べ物の置き換えである。」という人として基本的なことを追記すべき。

**【事務局】**

第1章における食育の定義づけなどで、そのように追記したい。

**【中田委員】**

10ページ、北海道は全国と比較しても野菜の摂取量が少ないとあるが、北海道は特に冬時期の野菜の価格や賃金の低さも影響があるのでは。

**【尾澤委員】**

その中でも食をどう選択していくかを伝えることが、食育の重要性でもある。

**【郷委員】**

豆腐の摂取量も北海道は全国と比較しても少ない。野菜の摂取量について特化しているが、野菜だけでなくバランスのいい食生活が健康な体づくりに大切であることを踏まえてほしい。

**【佐藤委員】**

教育現場では、食物アレルギーへの対応が喫緊の課題である。その点についても計画の中で触れるべきである。

**【郷委員】**

食物アレルギーについて、まずは、現状を把握するということからできないか。

**【事務局】**

食物アレルギーを理解することの重要性についても追記したい。

**【郷委員】**

12ページ、子ども食堂の活動では札幌学院大学の取り組みのほか、北翔大学が野幌商店街で活動されているが。

**【事務局】**

どちらの活動も承知している。可能な限り紹介したい。  
(その他意見なし)

## **5 その他**

(なし)

## **6 閉 会**

**【小野寺委員長】**

これで第2回江別市食育推進計画策定委員会を終了する。

以上